

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和7年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第7号（10月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401
南さつま市金峰町大野 2200
TEL:099-245-1081（代表）
099-245-1157（直通）
FAX:099-245-1149



ホームページアドレス：<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosho/index.html>

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp

農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

- | | |
|--------------|---|
| 1. 使用する人の安全 | 使用者自身の健康管理，安全使用 |
| 2. 作物に対する安全 | 適期，適正防除で薬害防止 |
| 3. 農産物に対する安全 | 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守) |
| 4. 環境に対する安全 | 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川，湖沼，海等への汚染防止)
(養蚕，養蜂等への危被害防止) |
| 5. 保管管理の安全 | 保管管理の徹底で事故防止 |

農薬ラベルを確認しましょう

農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう

令和7年度 病虫害発生予報 第7号

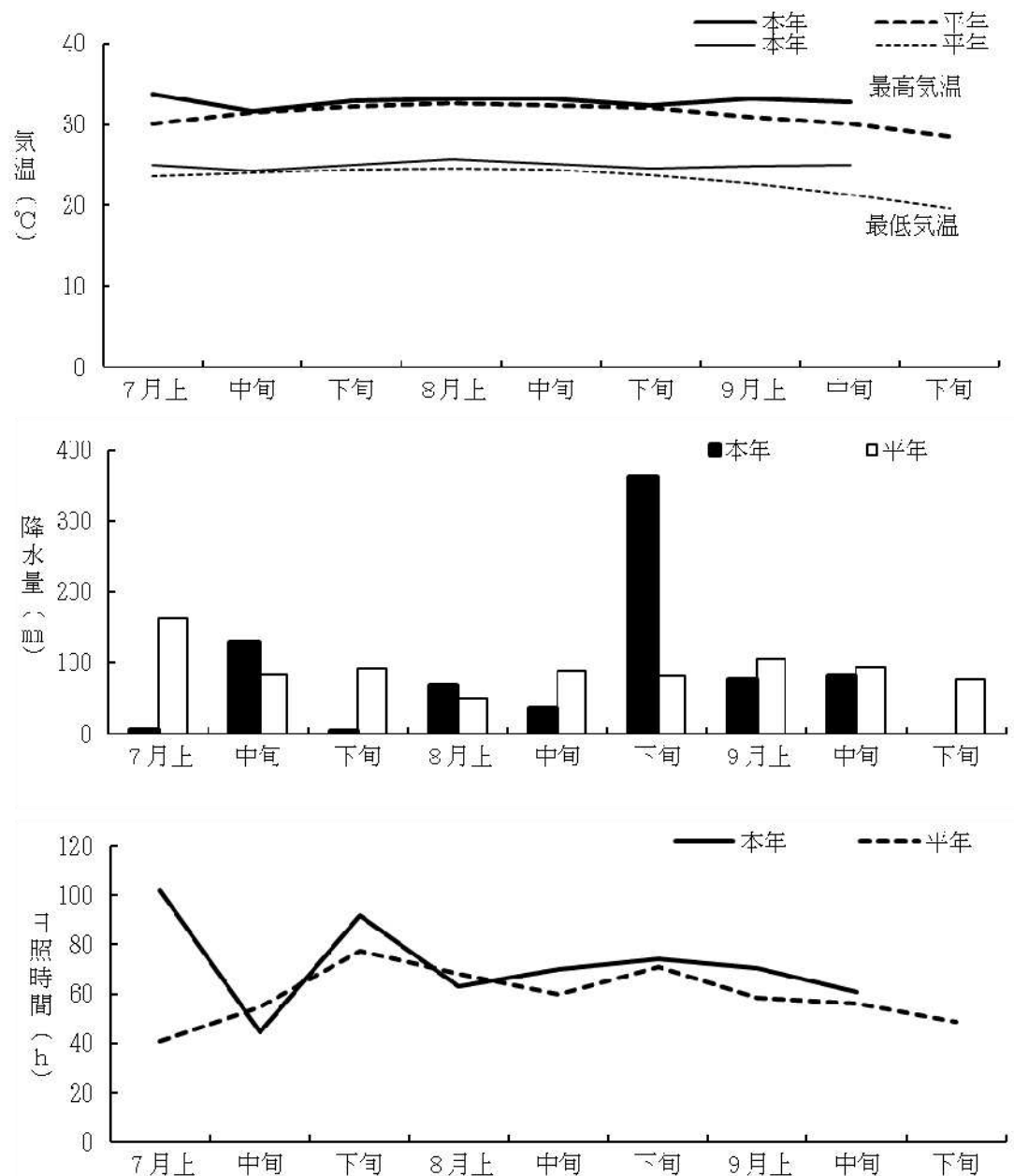
令和7年9月30日
鹿児島県病虫害防除所

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（9月27日から10月26日） 令和7年9月25日 鹿児島地方気象台 発表

		低い(少ない)	平 年 並	高い(多い)	
気 温	九 州 南 部	1 0	1 0	8 0	九州南部，奄美地域ともに 気温は平年より高く，降水 量は平年並みか多い。日照 時間は九州南部は平年並 みか少なく，奄美地域は平 年並。
	奄 美 地 方	1 0	1 0	8 0	
降 水 量	九 州 南 部	2 0	4 0	4 0	
	奄 美 地 方	2 0	4 0	4 0	
日照時間	九 州 南 部	4 0	4 0	2 0	
	奄 美 地 方	4 0	3 0	3 0	

II. 7～9月の気象情報（鹿児島地方気象台 観測点：加世田）



【 病 害 虫 発 生 予 報 の 概 要 】

作 物		病 害 虫 名		発 生 量	
				現 況	予 報
野菜	根深ネギ	ネギハモグリバエ		並	やや多
		アザミウマ類		多	多
花き	キ ク	ハダニ類（県本土，施設）		やや少	並
		アザミウマ類（県本土，施設）		やや少	並
野菜・花き共通	根深ネギ，ダイコン，キャベツ，エンドウ類，キク等	ハスモンヨトウ		やや少～並	並
		シロイチモジヨトウ		並～やや多	やや多
果樹	カンキツ	かいよう病（県本土・熊毛地域）		並	やや多
		〃 （奄美地域）		やや多	多
		黒点病（県本土・熊毛地域）		並	やや多
		〃 （奄美地域）		やや少	並
		ミカンハダニ（県本土・熊毛地域）		並	やや多
		〃 （奄美地域）		やや多	多
		サビダニ類（県本土・熊毛地域）		やや少	並
		〃 （奄美地域）		並	やや多
		果実吸蛾類（県本土・熊毛地域）		やや少	並
		〃 （奄美地域）		並	やや多
茶樹	チャ	果樹カメムシ類	ツヤアオカメムシ	やや少	やや少
			チャバネアオカメムシ	やや少	並
茶樹	チャ	カンザワハダニ		少	やや少

【病害虫発生予報】

I. 普通作物

防除に関する今月の留意事項

1. サツマイモ

(1) サツマイモ基腐病

発生が見られたほ場では、次年度の発病リスクを軽減するために、収穫後に以下の防除対策を徹底する。

＜本ぽ＞（収穫後の残さ対策）

ア 屑イモや諸梗は次期作の伝染源となるのでほ場外に持ち出し、適切に処分する。

イ 僅かに残った残さの分解を促進するため、収穫直後に速やかに残さの細断やすき込みを行う。

また、土壌が乾燥している場合は、灌水を行ってから耕耘する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 (https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20240315133011-1.pdf)，農研機構 (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf, https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/motogusarebyo_hatsubyorisuku_tei_gen_manial.pdf) をご覧ください。



鹿児島県
サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル(第4版)
令和6年3月改訂



農研機構
サツマイモ基腐病の
発生生態と防除対策
(令和4年度版)



農研機構
「本圃におけるサツマイモ基腐病
発病リスク低減技術」マニュアル
令和7年3月

Ⅱ. 野菜

1. 根深ネギ

(1) ネギハモグリバエ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量 並

発生ほ場率 58%

(平年：-%，前年：67%)：やや低い

発生程度の高いほ場を認めた (+)

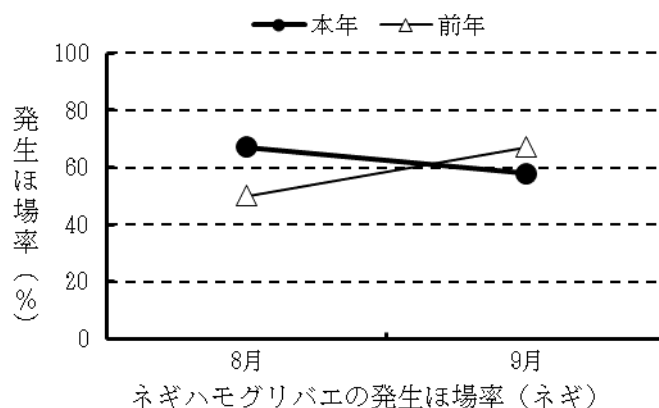
(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) B系統は多数の白色食害痕を生じるため、早期防除を徹底する。

(イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率 42%

(平年：-%，前年：0%)：高い

発生程度の高いほ場を認めた (+)

(イ) 気象予報

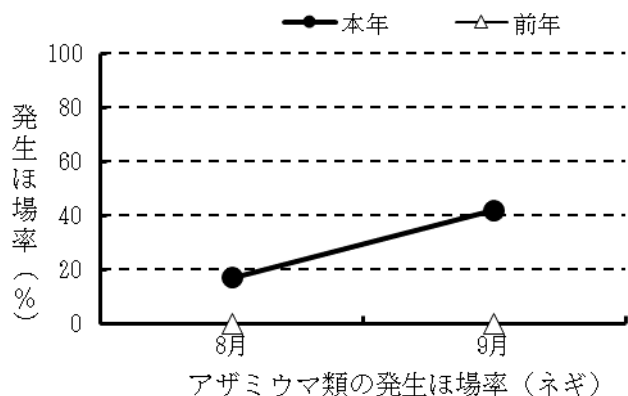
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 白いかすり状の食害痕の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を確認し、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。

(ウ) ほ場内及びほ場周辺の除草に努める。



Ⅲ. 花き

1. キク

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率 20%（平成 33%）
：やや低い

(イ) 気象予報

気温：高い（＋）

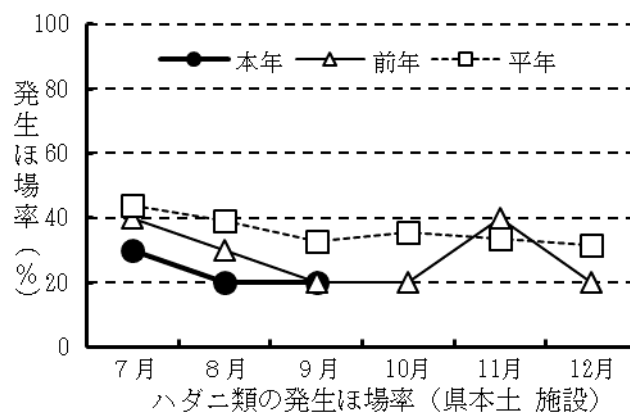
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する場合が多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬液は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率 20%（平成 32%）
：やや低い

(イ) 気象予報

気温：高い（＋）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類の発生動向を把握するには、出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。なお、クロゲハナアザミウマの誘引効率はやや低いと思われる。

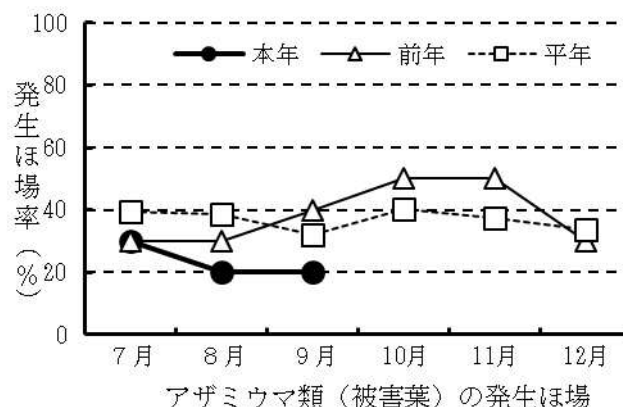
(イ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。

(ウ) アザミウマ類はキクえそ病（TSWV）、キク茎えそ病（CSNV）を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見及び早期防除に努める。

(エ) クロゲハナアザミウマの発生が認められる場合、本種は主に中下位葉に寄生しているため、薬液は中下位葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(オ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(カ) 母株や苗は導入時に、アザミウマ類の寄生やウイルス病の発生がないか注意する。



IV. 野菜・花き共通

(1) ハスモンヨトウ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作物 根深ネギ、ダイコン、キャベツ、エンドウ類、キク等
(ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少～並

各品目での発生状況

作物名	発生ほ場率 (%)			総合概評
	本年	前年	平年	
根 深 ネ ギ	8	17	-	やや少*
ダ イ コ ン	0	8	-	やや少*
キ ャ ベ ツ	25	25	26	並
キ ク	0	20	4	やや少

※根深ネギは令和6年度、ダイコンは令和5年度から調査のため、前年比による概評を記載

8～9月のフェロモントラップ総誘殺数：やや少～並

南さつま市		鹿屋市
発生量	並	やや少
誘殺数（8月5半旬～9月4半旬）13,056頭（平年13,401頭）13,739頭（前年18,643頭）		

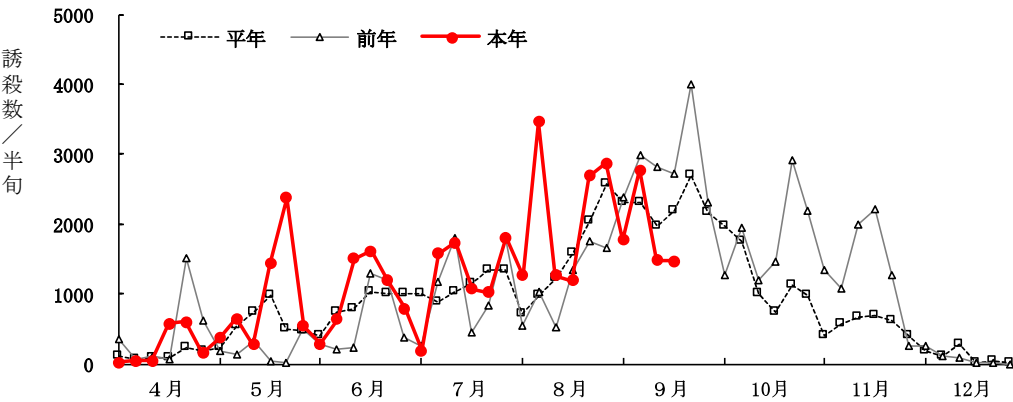
※鹿屋市は令和6年度から調査地点を変更したため、前年比による概評を記載

(イ) 気象予報

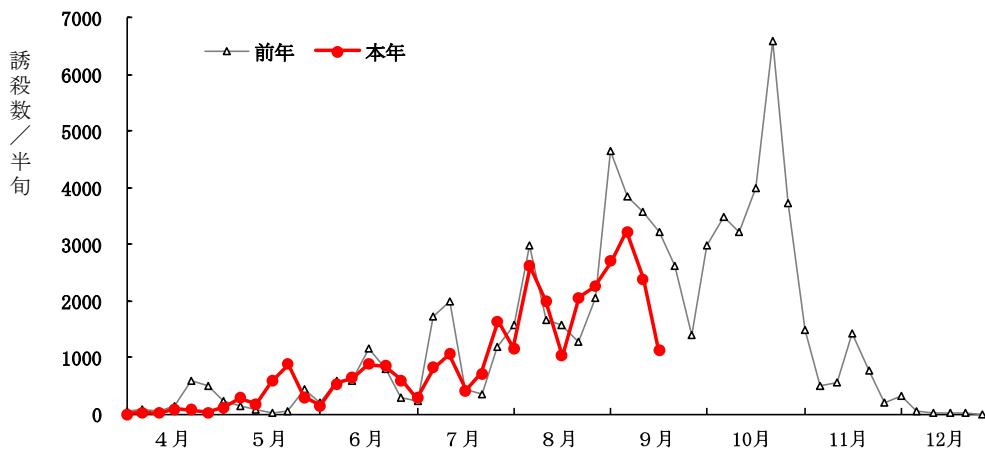
気 温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発生状況は作物や各地域で異なるため、ほ場を見回り幼虫の発生状況を確認する。
(イ) 若齢幼虫は集団で表皮だけを残して食害するので、発生の目安にする。
(ウ) 卵塊や若齢幼虫が寄生している葉は、見つけ次第摘み取り処分する。
(エ) 中・老齢幼虫になると農薬が効きにくいので、防除は若齢幼虫の多い時期に行う。
(オ) ジアミド系農薬に対して感受性低下が認められる。他の使用農薬も含め、散布後の効果を確認する。



フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況（南さつま市）



フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況 (鹿屋市)
※令和6年度から調査

(2) シロイチモジヨトウ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作物 根深ネギ、キャベツ、エンドウ類、キク等
(ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並～やや多

各品目での発生状況

作物名	発生ほ場率 (%)			総合概評
	本年	前年	平年	
根深ネギ	25	8	-	やや多*
キャベツ	0	0	3	並
キク	10	0	1	やや多

※根深ネギは令和6年度から調査を行ったため前年比による概評を記載

8～9月のフェロモントラップ総誘殺数：少～やや少

	南さつま市	鹿屋市
発生量	少	やや少
誘殺数 (8月5半旬～9月4半旬)	33頭 (平年86頭)	16頭 (前年26頭) *

※鹿屋市は令和6年度から調査地点を変更したため、前年比による概評を記載

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発生状況は作物や各地域で異なるため、ほ場を見回り幼虫の発生状況を確認する。
(イ) 若齢幼虫は集団で表皮だけを残して被害するので、発生の目安にする。
(ウ) 卵塊や若齢幼虫が寄生している葉は、見つけ次第摘み取り処分する。
(エ) 中・老齢幼虫になると農薬が効きにくいので、防除は若齢幼虫の多い時期に行う。
(オ) 一部のジアミド系農薬 (クロラントラニリプロール、フルベンジアミド) に対して感受性低下が認められる。他の使用農薬も含め、散布後の効果を確認する。

V. 果 樹

1. カンキツ

(1) かいよう病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域（果実） やや多

奄美地域（果実） 多

イ 予報の根拠

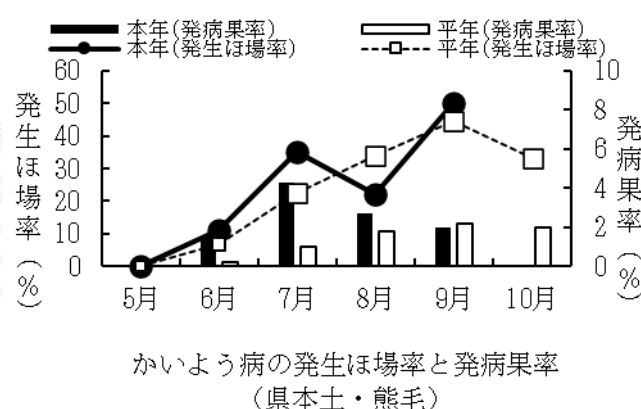
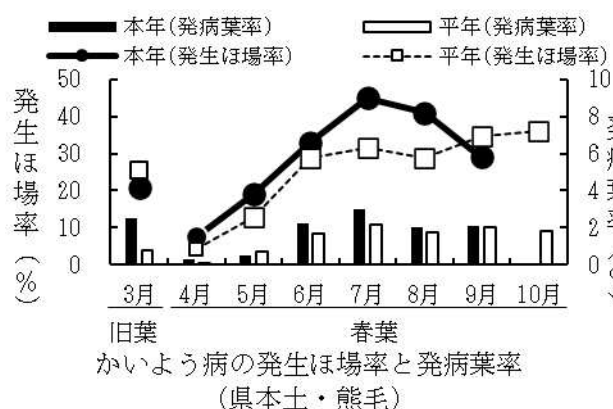
<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果

	春葉	果実
発生量	並	並
発生ほ場率	29%（平成 35%）：並	50%（平成 45%）：並
発病率	2.1%（平成 2.0%）：並	2.0%（平成 2.2%）：並
発生程度	—	発生程度は低い（－）

(イ) 気象予報

降水量：平成並みか多い（＋）



<奄美地域>

(ア) 調査結果

	春葉	果実
発生量	並	やや多
発生ほ場率	14%（平成 11%）：並	29%（平成 11%）：高い
発病率	0.1%（平成 0.1%）：並	0.3%（平成 0.2%）：並
発生程度	—	発生程度は低い（－）

(イ) 気象予報

降水量：平成並みか多い（＋）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 菌は台風等の強い風雨により感染が助長されるため、台風の接近が予想される場合は3日前～前日の予防散布を行う。

(イ) 強風による枝の風揺れを防止するため、支柱や防風網を設置して風傷の発生を軽減する。

(ウ) 罹病した夏秋梢やミカンハモグリガの被害を受けた夏秋梢はせん除し、伝染力の強い越冬病斑を少なくする。

(2) 黒点病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域(果実) やや多

奄美地域(果実) 並

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量 : 並

発生ほ場率 59% (平年 53%) : 並

発病果率 1.7% (平年 9.6%) : やや低い

(イ) 気象予報

降水量: 平年並みか多い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量: やや少

発生ほ場率 0% (平年 9%) : やや低い

発病果率 0% (平年 0.3%) : やや低い

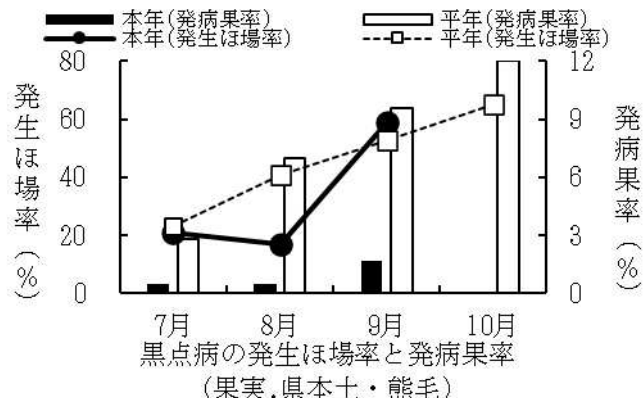
(イ) 気象予報

降水量: 平年並みか多い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 薬剤防除は累積降水量 200~250mm を目安とするが、近年、数日でこの雨量を超える場合が多いため、薬剤散布間隔は気象情報に留意し、簡易雨量計等の設置により防除の目安とする。

(イ) 伝染源となる枯れ枝はこまめにせん除し、せん定枝は園外に持ち出して処分する。



(3) ミカンハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 やや多

奄美地域 多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 (春葉) 発生量 : 並

発生ほ場率 23% (平年 23%) : 並

寄生葉率 2.2% (平年 2.5%) : 並

(イ) 気象予報 気温: 高い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 (春葉) 発生量 : やや多

発生ほ場率 29% (平年 13%) : やや高い

寄生葉率 1.4% (平年 0.3%) : 高い

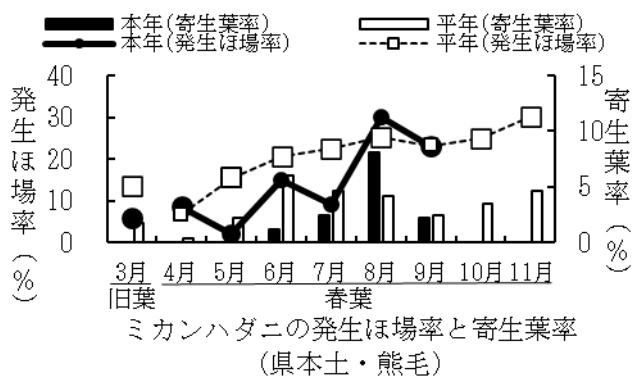
(イ) 気象予報

気温: 高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 1葉当たり雌成虫数 0.5~1.0頭 (寄生葉率で 30~40%) を目安に防除する。

(イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。



(4) サビダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 並

奄美地域 やや多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 0 % (平年 6 %)

：やや低い

被害果率 0 % (平年 0.3 %) : やや低い

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 0 % (平年 3 %) : 並

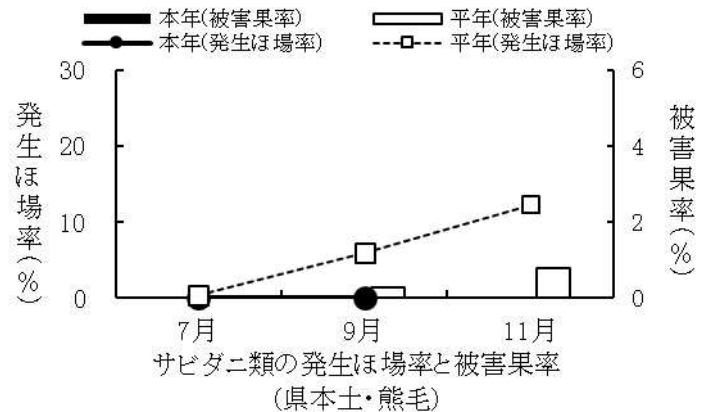
被害果率 0 % (平年 0.1 %) : 並

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) リュウキュウミカンサビダニは秋季以降も果実上で加害し続けるので、被害果を認めた場合は、直ちに散布ムラがないように薬剤防除する。



(5) 果実吸蛾類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 並

奄美地域 やや多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 9 % (平年 17 %) : やや低い

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 0 % (平年 0 %) : 並

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 夜間に活動し、果実を吸汁し腐敗落果させる。果皮の薄い早生温州や津之輝等は被害を受けやすい。

(イ) 防蛾網 (7.5~10mm 目) で被覆するほか、黄色忌避灯を主体とした集団点灯を行う。

(6) 果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ，チャバネアオカメムシ）

（令和7年度技術情報第15号，9月1日付け参照）



ア 予報内容

（ア）発生地域 県本土

（イ）発生量 ツヤアオカメムシ やや少
チャバネアオカメムシ 並

イ 予報の根拠

（ア）調査結果 発生量 ツヤアオカメムシ : やや少
チャバネアオカメムシ : やや少

発生ほ場率 4%（平年 5%）： 並

ア）餌植物（ヒノキ）球果の着果量は，球果量指数 36（平年 48）と平年に比べて少ない。

イ）予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の1回目のピークは，平年とほぼ同時期の9月第1半旬（出水市 4,479 頭）であった。

その後，南さつま市，鹿屋市の予察灯で誘殺虫数が増加傾向である（＋）。

ウ）7月以降，ヒノキ球果の口針鞘数は平年より少なく推移し（表1），日置市と出水市では9月後期調査で口針鞘数 25 本/果を超えており，ヒノキから離脱している可能性が高い。

ウ 防除上注意すべき事項

（ア）果樹園への飛来は地域により異なり，園内でも偏りがあるので注意深く見回り，飛来を認めたら直ちに防除する。

表1 ヒノキ球果の口針鞘数（カメムシ類の吸汁痕数）

（単位：本/果）

調査地点	地点数	調 査 月 日					
		7/1～7/8	7/25～7/30	8/1～8/6	8/15～8/18	9/4～9/5	9/16～9/17
南さつま市	1	0.0	0.0	0.5	3.3	10.0	10.5(37) [※]
いちき串木野	1	0.0	2.1	0.2	10.8	16.1	12.0(25)
日置市	1	0.1	0.5	5.7	5.4	20.3	26.4(37)
阿久根市	1	0.0	0.1	4.3	6.2	16.1	16.7(34)
出水市	1	0.1	1.3	2.2	6.1	18.4	31.3(34)
さつま町	1	0.0	0.5	2.8	7.8	17.0	18.1(41)
霧島市	2	0.0	0.5	0.9	2.5	10.0	12.8(44)
曾於市	2	0.1	0.2	2.2	2.9	16.2	12.0(37)
平均 本年	10	0.0	0.6	2.2	4.1	15.0	16.4
前年	8	1.0	4.0	8.5	13.0	15.2	17.4
平年	8	0.6	2.9	6.9	10.8	16.1	20.1

注1）表中の（ ）※は口針鞘数の最大値を示す

2）平年は2015年～2024年の10年間の平均。

3）カメムシがヒノキ球果から離脱する目安は口針鞘数 25/果

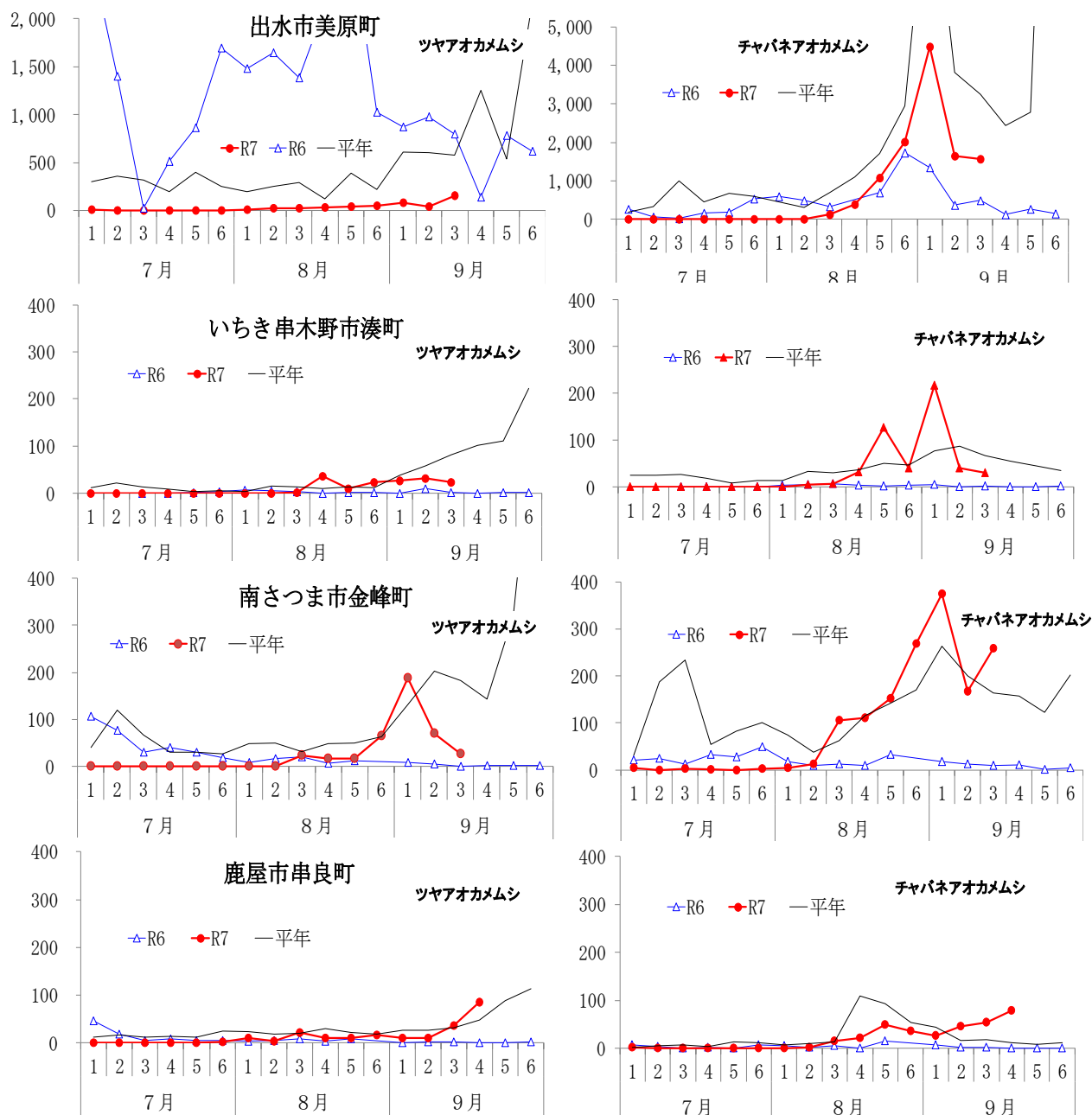


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

注1) 平年は2015年～2024年の10年間の平均値

注2) 予察灯の光源は、南さつま市金峰町は水銀灯100W、鹿屋市串良町は捕虫灯20W、他は捕虫灯40W

注3) グラフの縦軸は半旬毎の誘殺虫数

VI. 茶 樹

1. チャ

(1) カンザワハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：少

発生ほ場率 17% (平年 30%)

：やや低い

寄生葉率 0.4% (平年 1.9%)

：やや低い

発生程度が低い (－)

(イ) 気象予報

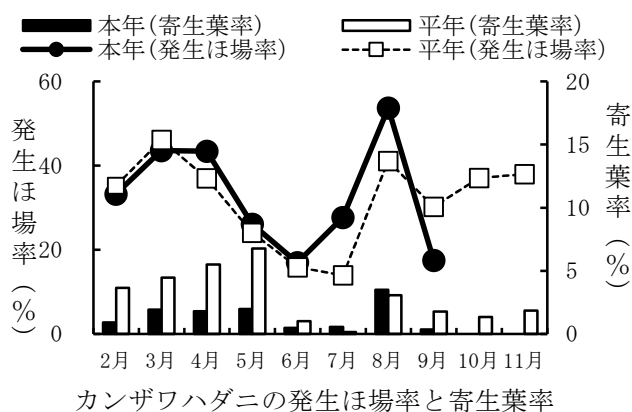
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 天敵のカブリダニ類は9～10月に最も活動するため、農薬は影響が少ない剤を選定する。

(イ) 越冬前の密度は翌春の発生量に大きく影響する。発生の多い園では秋整枝直後と11月中旬～下旬に防除を行う。

(ウ) 薬液は、葉裏まで十分にかかるように散布する。



農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り，記載された用途，方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて，適切な防除衣，保護具（マスク・手袋等）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には農薬がほ場の外に飛散したり，流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は，住宅地及び畜舎に隣接するほ場や，土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で 10 日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は，施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬，不要になった農薬及び使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し，鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は，前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は，各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（＋），（－）は，発生量の増加，減少要因を示す。
- 気象予報は，向こう 1 か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去 10 年間の平均値を使用。